

#### 14 今山・横馬場

男女神社由来記によれば、ここら一円を男女山と言い、今山というのは「今」の字は「二タリノ人」と書く。「二タリ」とは男女の二神を指したものとされた。昔はここに光明寺（廃寺）があり、その塔頭（子院）や末寺が建ち並び、南北に通ずる道路堅馬場、東西に通ずる道路横馬場があった。横馬場はこの道路名がそのまま地名になったという。

#### 15 山王

ここには山王社が祭られている。山の神の信仰であって、平安期の始めごろ、比叡山に「大山くい命」を祭ったのが始まりと言われている。山王という地名はこの社名からきたものであろう。

#### 16 国分・尼寺

天平のころ、国ごとに国分寺が建てられた。肥前の国では大和町国分に国分僧寺、尼寺に国分尼寺が建てられたことは歴史篇で詳述したが、その寺名がこの地名となったものである。

#### 17 大和町

昭和二十八年の町村合併促進法に基づいて、昭和三十年四月十六日隣接している春日、川上、松梅の三村が合併し大和村として発足した。旧三村大和の精神を基調とした住民の福祉を増進するのがねらいで命名された。昭和三十四年一月一日町制施行により大和町と改称した。

## 俗

## 民



往年の平野浮立

## ふるさとの心

古来、日本人は信仰心が厚く魏志倭人伝によると邪馬台国の女王卑弥呼が祭事と政治を一致させたように、神仏を祭ることと政治をすることは同一視され、政治のことを「まつりごと」と言っていた。したがって、年中行事もこうした信仰に関係あるものや、縁起えんぎに関係あるものが多かったようである。

これから述べることは日本中共通して行われるものもあり、また、佐賀県や隣辺の市郡と共通のものが多く、大和町独得というのはほとんど見られない。また、明治・大正・昭和と年代が進むにつれ、文化の発展と共になくなったり、形式が簡素化されたりしてきた。ことに第二次世界大戦ほっぼつが勃発してからは物資も不足するし、またこうした年中行事等をしてのんびりと生活を楽しむ余裕もなくなった。昭和二十年八月大戦が終わるや、民主国家建設を目指して全国民が起上りたあが、傷ついた国土の復興に全力を注いだため、こうした年中行事等を顧みるひまもなかったのである。一方、国民の生活様式の進歩と変化により生活が多忙となって、年中行事を生活の中に織り込む余裕もなく、古いものが嫌われる傾向にあったが、戦後約三十年を経過した現在では、平和と経済成長の中に次第に復活したり、戦前以上に盛んになる所も出てきた。以下述べることは昭和初期ごろまで大和町一帯で行われたもので、その縁起するところは遠く奈良・平安時代のものもあるし、時代と共に少しずつ変化してきたようである。